

今年もタイ・バンコクでセミナー

先端建設技術センター（ACTEC）、北橋建治理事長）は14、15日、日本のゼネコンやメーカーが開発した建設技術を海外で発信するセミナーを昨年引き続きタイ・バンコクで開いた。「洪水調整」「地盤改良」「護岸」の3分野で公募した13技術を紹介した2日間にわたるセミナーには、現地政府や建設業界の関係者らが多数来場。「タイの建設業界に役立つような新しい技術を学びたい」（タイ建設業協会のサンウォン会長）と、同国のインフラをめぐる諸課題の解決につながるプレゼンテーションに熱心に耳を傾けた。

先端建設技術センター

日本の国土は、地震や洪水という頻発する自然災害、軟弱な地盤という厳しい環境下にある。この厳しい国土を支えているのは、日本の建設技術だ。2011年に起きたタイの



北橋理事長

大洪水で当センターの職員が国際緊急援助隊として、日本の技術を用いて排水作業をお手伝いした。この経験を機に、タイの国土も日本と同様、またはそれ以上に厳しい環境にあることを知った。

日本の技術ぜひ役立てて

聴講いたたく皆さまには、このセミナーの役割は非常に大きいと思ひ、引き続き2回目のセミナーを開催することにした。1月から約3カ月間、日本企業から建設技術を公募し、タイに役立つ13の技術を抽出した。2日間にわたり各技術のプレゼンテーションを行う。ホール入り口には各技術の概要を示すポスターも展示する。

2日間で延べ324人
セミナーは「Seminar on Japanese Construction Technology in Thailand 2016」として開かれ、国土交通省、駐タイ日本大使館、国際協力機構（JICA）が後援した。会場の日本大使館には2日間で延べ324人が来場。3日間で約320人が訪れた前回（2015年9月15、17日）を上回る盛況ぶりとなった。

「洪水調整」「地盤改良」「護岸」、3分野13技術売り込み

「省力化」「免震・制震」を加えた5分野から抽出した13社18技術のプレゼンが行われた。ACTECでは、タイのインフラニーズに一層的に心えよと、公募対象を3分野に集約。13社の13技術を抽出した。半分は初参加で、国内の合同説明会やプレゼンテーションを通じて、本番でのプレゼンに向けた準備を進めてきた。



模型の展示が来場者の興味を引いたポスターセッション



通訳の女性がタイ語で技術を分かりやすく伝えた

4月に着任した増竜技術調査部長は、「現地政府からは、もう少しテーマを絞り、ワークショップのような形で開催するニーズも出ている」と話し、次回以降、今回のようなセミナーとも両面に紹介する手法を模索していく構えだ。

「使用する機械のコストがどれくらいか」と細かい質問が寄せられた。（パワープレントー）、「RIDDの方たちが数多くブリスを訪れ、熱心に質問していただいた」（共和コンクリート工業）、「ブリスで頂いた名刺に記載されたメール宛てに詳細な資料を送ることにした」（清水建設）、「使用する機械のコストがどれくらいか」と細かい質問が寄せられた。（パワープレントー）

前回は、今回の3分野に「省力化」「免震・制震」を加えた5分野から抽出した13社18技術のプレゼンが行われた。ACTECでは、タイのインフラニーズに一層的に心えよと、公募対象を3分野に集約。13社の13技術を抽出した。半分は初参加で、国内の合同説明会やプレゼンテーションを通じて、本番でのプレゼンに向けた準備を進めてきた。

「省力化」「免震・制震」を加えた5分野から抽出した13社18技術のプレゼンが行われた。ACTECでは、タイのインフラニーズに一層的に心えよと、公募対象を3分野に集約。13社の13技術を抽出した。半分は初参加で、国内の合同説明会やプレゼンテーションを通じて、本番でのプレゼンに向けた準備を進めてきた。

「省力化」「免震・制震」を加えた5分野から抽出した13社18技術のプレゼンが行われた。ACTECでは、タイのインフラニーズに一層的に心えよと、公募対象を3分野に集約。13社の13技術を抽出した。半分は初参加で、国内の合同説明会やプレゼンテーションを通じて、本番でのプレゼンに向けた準備を進めてきた。

「省力化」「免震・制震」を加えた5分野から抽出した13社18技術のプレゼンが行われた。ACTECでは、タイのインフラニーズに一層的に心えよと、公募対象を3分野に集約。13社の13技術を抽出した。半分は初参加で、国内の合同説明会やプレゼンテーションを通じて、本番でのプレゼンに向けた準備を進めてきた。

「省力化」「免震・制震」を加えた5分野から抽出した13社18技術のプレゼンが行われた。ACTECでは、タイのインフラニーズに一層的に心えよと、公募対象を3分野に集約。13社の13技術を抽出した。半分は初参加で、国内の合同説明会やプレゼンテーションを通じて、本番でのプレゼンに向けた準備を進めてきた。

「省力化」「免震・制震」を加えた5分野から抽出した13社18技術のプレゼンが行われた。ACTECでは、タイのインフラニーズに一層的に心えよと、公募対象を3分野に集約。13社の13技術を抽出した。半分は初参加で、国内の合同説明会やプレゼンテーションを通じて、本番でのプレゼンに向けた準備を進めてきた。

「省力化」「免震・制震」を加えた5分野から抽出した13社18技術のプレゼンが行われた。ACTECでは、タイのインフラニーズに一層的に心えよと、公募対象を3分野に集約。13社の13技術を抽出した。半分は初参加で、国内の合同説明会やプレゼンテーションを通じて、本番でのプレゼンに向けた準備を進めてきた。

「省力化」「免震・制震」を加えた5分野から抽出した13社18技術のプレゼンが行われた。ACTECでは、タイのインフラニーズに一層的に心えよと、公募対象を3分野に集約。13社の13技術を抽出した。半分は初参加で、国内の合同説明会やプレゼンテーションを通じて、本番でのプレゼンに向けた準備を進めてきた。

「省力化」「免震・制震」を加えた5分野から抽出した13社18技術のプレゼンが行われた。ACTECでは、タイのインフラニーズに一層的に心えよと、公募対象を3分野に集約。13社の13技術を抽出した。半分は初参加で、国内の合同説明会やプレゼンテーションを通じて、本番でのプレゼンに向けた準備を進めてきた。



セミナーのプログラム

（技術分野①地盤改良技術②護岸・盛り土技術③洪水・排水対策技術）

【9月14日】

■開会あいさつ 先端建設技術センター・北橋建治理事長

■祝辞 駐タイ日本大使館・佐渡島志郎大使一写真（1）、タイ王立灌漑局（RID）・ソムキャット副局長一写真（2）

～フォトセッション～

■基調講演 日本の建設技術とその適用性に関するタイの需要～TEAMコンサルティングインターナショナル・チャワリット社長一写真（3）

■建設技術に関連した日本のプロモーション活動の紹介 先端建設技術センター・増竜技術調査部長一写真（4）

■プレゼンテーション

◇清水建設 高性能TBM③

◇ユニチカ ジオテキスタイルを用いた軟弱路路上舗装①

◇ケミカルグラウト GEOPASTA（ジオパスタ）工法①

～ポスターセッション～

◇パワープレントー工法協会 パワープレントー工法①

◇芦森工業 パレスシート工法①

◇西尾レントオール 3Dマシンコントロールシステム（モーターグレーダー）②

◇西松建設（ハイグレードソイルコンソーシアム）HGS短繊維混合補強土工法②

～ポスターセッション～

■基調講演 日本のメンテナンス技術～国土交通省総合政策局公共事業企画調整課、新田恭士企画専門官一写真（5）

【9月15日】

■祝辞 バンコク都（BMA）・スラート水質管理部長一写真（6）、タイコンサルティングエンジニア協会（CEAT）・スポット会長一写真（7）、タイ建設業協会（TCA）・サンウォン会長一写真（8）

～フォトセッション～

■基調講演 チョーカンチャンによる主な建設プロジェクトの紹介～チョーカンチャン社・プリュー会長一写真（9）

■プレゼンテーション

◇日本国土開発 ツイスター工法①

◇共和コンクリート工業 環境保全型覆土連結ブロック工法②

◇荏原 大型排水ポンプおよびポンプシステム③

～ポスターセッション～

■基調講演 タイにおける日本の建設会社の取り組み～バンコク日本人商工会議所建設部会、小野昌邦鹿島道路執行役員〈海外担当〉一写真（10）

■プレゼンテーション

◇技研製作所 油圧圧入工法およびインプラント構造物②③

◇三信建設工業 従来技術から大きく進化した薬液注入工法-マルチストレーナ工法①

◇日立造船 陸上設備型フラップゲート式防潮堤技術「neo RiSe」③

～ポスターセッション～

■講義 東京における地下工事の効果的な利用～先端建設技術センター・吉田延雄理事一写真（11）

■閉会あいさつ 先端建設技術センター・増竜技術調査部長



(1)



(2)



(3)



(4)



(5)



(6)



(7)



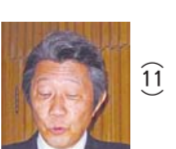
(8)



(9)



(10)



(11)

インフラめぐる課題解決へ

「使用する機械のコストがどれくらいか」と細かい質問が寄せられた。（パワープレントー）、「RIDDの方たちが数多くブリスを訪れ、熱心に質問していただいた」（共和コンクリート工業）、「ブリスで頂いた名刺に記載されたメール宛てに詳細な資料を送ることにした」（清水建設）、「使用する機械のコストがどれくらいか」と細かい質問が寄せられた。（パワープレントー）

興味深い話題提供も 鉄道工事で日本・中国勢競う

日本企業の技術を紹介する今回のセミナーでは、佐トを手掛けるバンコク都渡島志郎駐タイ日本大使や、管理部長は、セミナーを通じての技術移転に大きな期待を寄せた。タイ最大手の建設会社のチョー・カンチャン社のプリュー会長と幹部は、同社が手掛けるダムなど大型プロジェクトを映像を交えて紹介した。

現地最大手の現場視察

セミナーに参加した日本企業各社の一行は16日、タイ最大手の建設会社チョー・カンチャン社が施工する大型建設プロジェクトの現場を視察。現地の建設事情を知る貴重な機会を得た。見学したのは、地下鉄MRTの「ブルーライン」の「ブルーライン」と呼ぶプロジェクト。途中にある幅2000mの河川の下を含めたトンネルを1日12kmの速度で掘り進めたことや、さまざまな地層への対応、1台のマシンで2本のトンネルを施工したこと、セグメントの自社製作など、各社が興味を抱く技術面の対応について質疑が繰り返された。



施工が進む「ブルーライン」のトンネル内

「効率も良く、長持ちする」ことが施工途中の現場を見ただけで分かる」として、日本の優れた技術が同国のインフラに貢献している一例を示した。

ACTECの吉田延雄理事は、タイでも需要が高まっているトンネルなど地下空間を活用したインフラ整備に貢献するさまざまな技術を取り上げたレクチャーを行った。

日本の技術を紹介するセミナーに多くの来場者が詰め掛けた。バンコクの日本大使館で。

WORLD WIDE ワールドワイド

◆今回の「ワールドワイド」は10月12日付に掲載予定です。